

浪速区制100周年プレ企画

最終回【第11回】

恵美地域

俳人 小西来山

区長 このあたりは江戸時代、「今宮村」と呼ばれていて、その今宮村に居を構えた、恵美地域ゆかりの人物が小西来山ですね。

大南さん 1654(承応3)年に今の中央区の薬種問屋に生まれた、元禄時代の代表的な俳人です。晩年にこの地に居を構えて「十萬堂」と名付けて閑静な余生を送りました。住居は戦災で焼けてしまいましたが、その石碑が恵美須西2丁目に建っています。

大阪の真ん中に住みながら、「お奉行の名さへ覚えず 年の暮」という句を詠み、それが奉行の耳に入って立腹され、この地に移ってきたそうです。「時雨るる やしくれぬ中の 一心寺」という句は、十萬堂から一心寺までの当時草原だった情景を眺めて詠んだと言われている、一心寺に句碑があります。墓は一心寺と、今宮戎神社の隣にある海泉寺にあります。



小西来山十萬堂跡の碑



【参加者】(後列左から) 大原 克美さん、田河和美さん、新井 泰勇さん、菅野 喜久男さん、横 喬さん
(前列左から) 鍋島 加津子さん、朝野 敏之さん、幡多区長、大南 勇吉さん、高橋 慎太郎さん

た。昔は馬が交通手段だったので、かわいそうに馬の死骸もたくさんありました。天王寺駅に着いたら、驚いたことに国鉄は動いていました。空襲であっても動いていたんです。

今宮戎神社と十日戎

区長 恵美地域といえば、今宮戎神社と十日戎も有名です。

新井さん 神社の創建は、西暦600年と伝えられています。

菅野さん 私は1947(昭和22)年生まれですが、小学生の頃の十日戎の露店は、神社のまわりと廣田神社まで、神社の東門から堺筋までの間しかなくて、今ほど広くはありませんでした。今の阪神高速道路の下は、昔は川だったんですが、それが埋め立てられてから、露店が広がったんだと思います。

ちなみに川には橋が架かっていて、今宮戎神社の北側にあったのが廣田橋。紀州街道に架かっていたのが夕日橋です。

大原さん 昔、「十津川屋」といううどん屋さんがあって、橋がなくて皆、困っていたので、そのうどん屋さんが私財で、そんなに立派ではない細い橋でしたけど、川に木の橋を架けたんですよ。その後に、夕日橋ができました。

横さん 川には材木がいっぱい浮かんでいました。川べりには材木屋が多かったです。川から材木を引き上げて作業場で製材をしていました。作業場の土階に人が住んでいました。表の道路から見ると地下が作業場で、1階部分が住み家になっていました。

深堀り！ **中山太陽堂と通天閣**
中山太陽堂は、化粧品雑貨卸売業として1903(明治36)年に創業した会社で、初代通天閣(1912(明治45)年～)のエントランスの天井に、クジャクや季節の花々を配した大変華やかな、クラブ化粧品の天井画広告を掲出していました。2015(平成27)年に、現在の2代目通天閣(1956(昭和31)年～)に初代通天閣の天井画の複製版が寄贈され、当時の商品名(クラブ洗粉、クラブ白粉、クラブ歯磨、クラブ化粧水)とともに鮮やかな天井画が複製しました。クラブコスメテックスHP参照

区長 戦争で焼け野原になった後、この地域にはいろんな工場が建ったんですね。大原さんは戦前のお生まれですが、戦争の記憶はありますか？

大原さん 私は大阪大空襲の経験をしました。6歳の時でした。このまちの中を逃げまどったのを覚えてます。もう、凄かったですよ。焼夷弾のせいで、広い道路も何もかも燃えていました。母に手をつながれて天王寺駅まで逃げました。道中、焼死体がたくさんありまし

2025(令和7)年、浪速区は区制100周年を迎えます。その節目にあたり、浪速区の歴史を区内11地域の皆さんと座談会で振り返る連載企画です。第11回では、恵美地域の皆さんに当時の思い出やエピソードなどを伺いました。

懐かしの夜鳴きそば

区長 戦後、恵美地域でも区画整理が行われました。何か、エピソードはありますか？

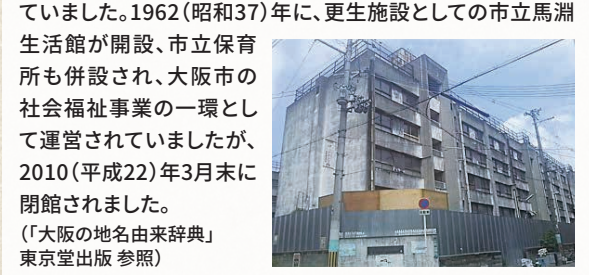
新井さん 昔はずらっとバラック建ての家が並んでいて、大勢の人が住んでいました。当時、バラックに住んでる子がいて、学校帰りにその子の家に付いて行ったことがあったんですが、来た道がわからなくなって、1人では出られなくなるような場所でした。

何回もそこで火事が起きて、そのたびに10軒か15軒ほどの家が燃えてなくなりました。住むところなくなった人々をどうにかしないといけないということで馬淵生活館が建てられました。

朝野さん 夜鳴きそばの屋台のリヤカーもずらっと並んでいました。今のように24時間営業のファミリーレストランなんかありませんでしたので、僕らのように夜間に工事をするときは、夜鳴きそばが1番助かりました。夜鳴きそばの屋台が音を鳴らしてやって来るとそれを止めて、よく食べていました。結構おいしかったですよ。その屋台の溜まり場があって、夜になるとそこから皆、リヤカーを引いて出ていくんです。40～50台ほどあったと思います。

大南さん 屋頃から皆さん、一生懸命、そこで仕込みをしていました。

深堀り！ **馬淵生活館**
旧馬淵町付近には、戦後、戦災や不況でこの地に住み着いた不安定就労者がバラックを建てて生活をしていました。住民たちは住民自治を行っていましたが、こうした地域は「不法占拠」とみなされ、大阪市会でも対応策が議題にあがるなどしてまいりました。1962(昭和37)年に、更生施設としての市立馬淵生活館が開設、市立保育所も併設され、大阪市の社会福祉事業の一環として運営されていましたが、2010(平成22)年3月末に閉館されました。(「大阪の地名由来辞典」東京堂出版 参照)



思い出がいっぱい 恵美小学校の運動会

区長 恵美小学校のことを伺います。2017(平成29)年に閉校になりましたが、思い出について教えてください。

新井さん 昔の小学校の運動会はすごかったです。親御さんらが、運動会の前の晩から席を取りに来て、当日は自分の子どもを一所懸命、応援していました。

田河さん 今の運動会は半日開催になっているようですが、昔は家族がお弁当を持ってきてくれて、昼休みに一緒に食べました。

私が小学生の頃は児童の数も多くて、1学年5クラスくらいありました。そのためクラス替えのたびに、友だちはバラバラになりますが、また新しい友だちができる楽しみがありました。

高橋さん 恵美小学校は、ICT教育も盛んでした。全生徒にタブレットが配られたのは、たぶん恵美小学校が1番早かったと思います。

ロボットも、日本橋のメーカーさんや電子部品屋さんがたくさん持ってきて、指導もしてくれました。全国大会にも出ていたんじゃないですかね。そういえば、算数の全国大会で、タイトルをとった子もいました。

住む人が住みやすいまちをめざして

区長 では最後に、この恵美地域への思いや期待について教えてください。

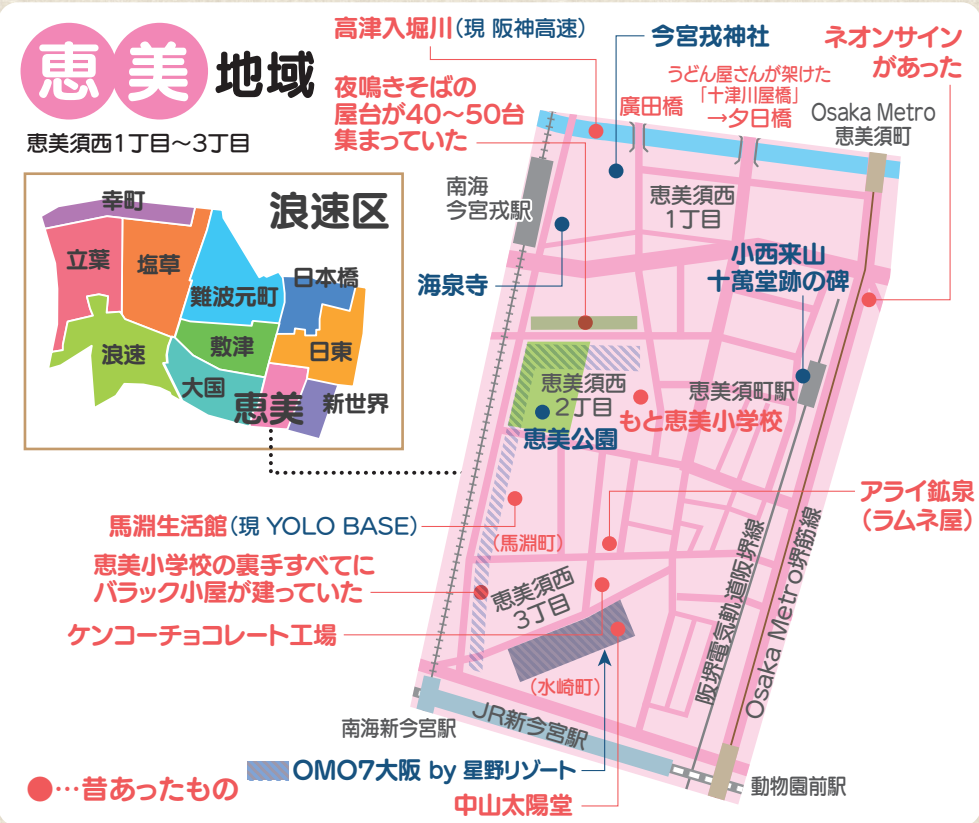
新井さん 私は、これまで何十年も、新今宮の駅をどこにも負けないきれいな駅にしてほしいと言ってきました。星野リゾートができましたが、新今宮は西成区側よりも浪速区側の方が遅れてると感じています。新今宮は良いまちだと言われるように、でも住む人が住みにくいまちにならないように、地域で考えていかなければならないと思います。

大南さん 新今宮と難波が発展すれば、この地域にも人の流れが出てくるでしょう。私は、この地域は商業的に発展すると良いと思っています。

なにわ筋線が入ってきたら、またイメージが変わるのではないかと思います。南海やJRのホームを広げたり、エレベーターやエスカレーターをつけるのに、今は敷地がありませんが、なにわ筋線を整備する時には新しいホームができるはずです。今は、線路が来るとしか聞いていないので、詳しい情報を地元に伝えてほしいです。



座談会全文はこちら



問合 区 総務課(企画調整) 6647-9683 6633-8270

浪速区制100周年記念事業

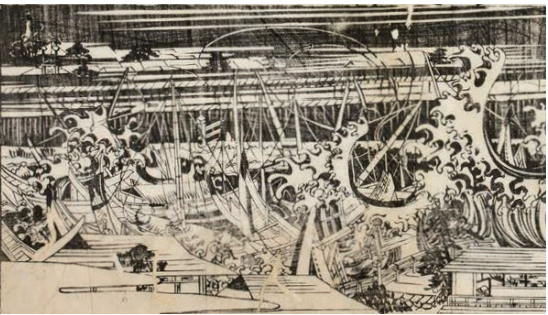
～浪速区の生い立ちを振り返ります～ vol.5

徳川末期の当区は一面が畑で、松原や農家が点在していました。1854年1月、大坂にロシアの軍艦が渡来し、人々は異国の黒船に目を見張り驚きました。この騒ぎが終わりかけた頃に安政の大地震と津波が起こりました。

(「大地震岡井川口津波記(口語訳)」より抜粋)
1854(嘉永7)年11月4日午前8時ごろ、大地震が起きた。空地に小屋掛けしたり、老人や子どもの多くは小舟に乗っていた。5日午後4時ごろ再び大地震が起きた。家が崩れ出火し、恐ろしい様子であった。ようやく治まった日暮れ頃、雷のような響きがとどろき、津波が押し寄せた。安治川、木津川に山のような大波が立ち、東横堀まで泥水が4尺(約130cm)ほど流れ込んだ。

停泊していた大小の船は碇の綱を打ち切れ、一瞬の間に川上へ遡り、その勢いで、安治川橋、…日吉、幸、住吉、金屋橋など、ことごとく崩れ落ちた。道にあふれた水に逃げ惑い、橋から落ちる人もあった。大きな船が横倒しになり、川下から入ってきた船が小舟を下敷きに次々に乗り上げ、川筋は、破船で山のようなになった。掛けつくりの納屋を大船が押し崩す物音や人々の叫び声が響き渡ったが、急で助けることもできず、おびただしい水死者が出た。

大正橋東詰に死者の冥福を祈り建てられた石碑には「すべての大地震の時、津波起こらんことを心得て、必ず船に乗るべからず。家崩れて出火あらん。…火用心肝要也」と後世の人のための戒めも刻まれています。



問合 区 総務課(企画調整) 6647-9683 6633-8270

なにわマニア話 vol.11

恵美地域

■海泉寺は元平家の武者・海泉房が建立した？

『浪速区史』や『大阪府全志』などによると海泉寺は元は平家の武者だったという海伝作太夫(のちに出家して海泉房となる)という漁師が元暦元年(1184)9月に海から観音像を引き揚げ、その後、翌年(1185)春に浄土宗の開祖・法然上人よりお袈裟や阿弥陀三尊来迎図を授かって寺院を開基したといえます。興味深いのは寺院開基の時期が、まさしく源平合戦のハイライトで、1184年3月に一ノ谷、1185年3月に屋島、そして1185年4月に壇ノ浦の戦いで平家が滅亡しています。浄土宗では西方に阿弥陀浄土があると教えますから当然、海泉房は大阪湾の西…かつての自分の主君や同僚たちが眠っている壇ノ浦の方角を拝んだことでしょう。平家一門の極楽往生を願って念仏を唱えたかも知れません。



むつさと 陸奥賢さん
観光家/コモンズ・デザイナー/社会実験者



海泉寺には井原西鶴とも交流した江戸時代の俳人・小西来山(1654～1716)の墓があることでも有名です(撮影:陸奥賢)

案内人